

CASBEE® 名古屋 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価 2014年版、4.0版より算出された環境負荷低減率を反映したバージョン (使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋市中区千代田三丁目Ⅱ 新築工事	階数	地上15F
建設地	愛知県名古屋市中区千代田三丁目611番1	構造	RC造
用途地域	緑化地域(10%)、防火地域、中高層居住専用地域、駐車場整備地区、下水道整備地区、居住環境地区、都市機能整備地区	平均居住人員	112 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2027年1月 予定	評価の実施日	2025年2月20日
敷地面積	612 m ²	作成者	
建築面積	281 m ²	確認日	2025年3月2日
延床面積	3,714 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.0 ★★★★★★☆☆☆☆ S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★	☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆ 標準計算 ① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外のオンサイト手法 ④ 上記+オフサイト手法 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3 音環境 3.3 温熱環境 3.3 光・視環境 3.1 空気質環境 3.6 Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.9 機能性 3.0 耐用性・信頼性 3.0 対応性・更新性 2.6 Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 1.7 生物環境 1.0 まちなみ・景観 2.0 地域性・アメニティ 2.0 LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.0 建物外皮の熱負荷 3.0 自然エネルギー 3.0 設備システム効率化 5.0 効率的運用 3.0 LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.9 水資源保護 3.4 非再生材料の使用削減 2.7 汚染物質回避 3.0 LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.1 地球温暖化への配慮 3.5 地域環境への配慮 2.5 周辺環境への配慮 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
LED照明や節水型水栓を採用し、敷地内温熱環境の向上や資源の保護に努めています。		特にありません
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境（敷地内）
F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用し、化学汚染物質による空気質汚染を回避しています。	給排水配管において更新必要間隔の長い配管を使用する、外壁にNSモールドを採用する等、維持管理しやすい設計となっています。	敷地内で緑化率10%確保しており、中木を植えています。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LED照明を採用しています。	躯体と仕上げ材が容易に分別できる材料を使用しています。	十分な駐車場・駐輪場を設けています。 また外部に漏れる照明について、点滅させたりしません。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)名古屋市中区千代田三丁目Ⅱ 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.7
LR1	エネルギー	4.0	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.0
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.7



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.0



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。